

インターネットの資料などを引き出す「コピペ」(コピー・アンド・ペースト)の防止など、大学生への論文指導の必要性が指摘されている。STAP細胞の論文問題を受け、学生の関心も高まっているが、指導する側からは、著作権法で認められる引用を行うことに加え、「自分の意見をしっかりと持つことが大切」との指摘が目立つ。(伊藤史彦)

山口裕之徳島大准教授の話などを基に作成

◆「コピペ」にならない論文、レポートのポイント

- ◆適切な引用をする
 - ◆出典をきちんと示す
 - ◆引用部分は「」でくくるなどして、わかるようにする(例 ○○によると、「～」である)
 - ◆引用はレポートの一部にとどめる

◆出典の書き方の例

- ◆本文中に()で挿入する
- ◆本文に「注」をつけ、レポートの末尾かページの下にまとめて記す
- ◆レポートの末尾に参考文献一覧を掲載する

◆インターネット資料から引用する際の記載事項

- ◆ページの制作者
- ◆ウェブページのタイトル、アドレス
- ◆閲覧日

コピペ防ぐ論文指導

「自分の意見を」上級生が助言

横浜市の慶応大日吉キャンパスでは、論文やレポートの書き方に悩む1、2年生を対象に、上級生や大学院生らが図書館で相談に応じる。新年度に入り相談件数は例年並みだが、「これはコピペになりますか」といった質問が増え、引用方法を確認する学生が目立つという。

慶大では2008年度から、論文技術の授業を受講した学生や大学院生約20人を相談員に任命している。「STAP細胞の論文問題で、『正しいルールを身につけなさいと大変なことになる』という意

最前線

学生による論文指導は各大学に広がっており、早稲田大も04年「ライティング・センター」を設置。研修を受けた大学院生らが希望者の相談に応じ、昨年は約4000人が利用した。

論文の盗用検知ソフトも注目さ

論文の書き方についての質問に答える学生相談員の辛さん(右)(横浜市の慶応大日吉図書館で)

れている。米アイパラダイムズ社の日本代理店によると、現在東京大や大阪大、早大など13大学が同社のソフトを使用。ほかに約10校が導入を検討中という。

ただし、チェックできる論文数は無制限ではなく、契約ごとに上限がある。東京都調布市の電気通信大は今年2月、年間1000本までの契約で運用を始めた。対象は大学院生以上の論文で、科学雑誌などに投稿する前の確認として使っている。「学部生の提出物まではチェックできない。日常的な論文指導が最も重要であることに変わりはない」と、同大の三橋渉理事は強調している。

徳島大で論文の書き方を指導する山口裕之准教授(43)は、ネットの文章を丸写しした新入生を注意したところ、「一生懸命調べてきたのに、なぜダメなんですか?」と困惑された経験が何度もある。

学生の話から浮かび上がったのが、小中高校の「調べ学習」の影響だ。「ネットで『答え』を探してまとめればよいと勘違いしてしまったのでは」と推測する。

山口准教授は昨年、「コピペと言われないレポートの書き方教室」(新曜社)を出版。文献などの出所を明示した「引用」とコピペの違い、信頼できる情報源の探し方、「根拠を基に意見を主張する」大切さを説いた。STAP細胞の論文問題で、「正しい論文の書き方を身につけよう」という意識が浸透すれば」と話す。

大阪大では今年度、全新生に「論文入門」の小冊子、教員には指導マニュアルを配布した。以前から計画していたものだが、担当した堀一成准教授(47)は「大学全体で論文の技術的指導を行う時期に来ている」と指摘した。

学が

育む

